

TOPIC②

3月8日
名古屋ウィメンズ
マラソン

「オンラインマラソン」
の波紋

名 古屋ウィメンズのオンラインマラソンは、5月31日まで、各自で42・195kmを走る取り組みだ。アプリは一度に完走を



アプリを通して実施する「マラソン」に、賛否両論が飛び交った

目指すのと、累積で走る2つの方法が選べ、アプリを使う環境にない人は、ウエブから走った記録・写真を提出する方法もある。達成者には、ティファニーのペンダントなどの完走賞が送られる。「完走賞にこだわる名古屋だからこそ、素敵なアイデア」と肯定的にとらえるのは走歴14年のあつこさん。「仲間と鎌倉トレイル、湘南、江ノ島で観光ランをする予定です。累積でいいので、フルの距離にこだわらず、楽しい1日を過ごしたい」。

一方「最初の発表では、個人でフルを走る危険性、雪国など走れる環境にない人、スマホを持つていない人に対する配慮がないと感じた」と語るのは9年連続参加のめぐみさん。運営側への指摘により問題点は改善されたが、どう走るか、まだ決めていない。「いだけけるものは、ただかなないと。来年は10回連続完走が目標」と力強く宣言した。「ユニークで興味深いけれど、完走賞が絡んできた途端に押しつけがましさを感じた」と話すのは、2回目の参加予定だったやえこさん。「純粹に走るのを楽しむために参加したかった」。3年ぶりの出場予定だったきみえさんは、「一気に走るのか、累積かを選ぶ時点でブレている。完走って何？」名古屋で自己ベストを出したときの感動も踏みにじられた思い」と憤る。不参加も考えたが、反対の意思表示として記録提出での参加予定。笑顔の写真を添付するには、時間がかかりそうだ。

エリート部では五輪代表が誕生。その日の午後、3時間45分切りを目指していたたかよさんは、友人と駒沢公園へ。「気持ち切り替え、10・55kmを4回走って自己ベストを目指すことにしました」。サブ3・5が目標のゆみこさんも「雨の中でも走れたのは仲間がいたから。3〜4月に4分割で走ります」。毎回完走が目標のじゅんこさんは「速い友人に引っぱられ、1kmの最速ラップが出ました」。来年の出走権のほうがいいかと話すのりこさんも、「せっかくのチャレンジ、今までと変わりなく、日々こつこつとできることを頑張ります」と少しずつ前向きになっている。

賛否両論あるが、女性たちは決して走ることを諦めない。その姿は頼もしく、勇気をもらえる。オンラインマラソンでも女性ランナーの魅力は健在だった。

熊 本の実家の近くでフルマラソン、しかも第1回なので見逃すわけにはいきません。前の週に熊本城マラソンも行われたので、この大会も開催間違いなし！と踏んでいたものの、3日前に中止の情報が。しかし、帰省も兼ねて走る気満々で、休みも宿も足もとっていたので、行くことにしました。

当日は前の週と打って変わり、快晴でマラソン日和。本来のスタート時刻に到着してみると、同じようにコースを走ろうという10人近くのランナーが集合しており、玉名市の市長さんも登場し、挨拶をしたところでスタート。序盤は周りにランナーが多く、ハーフや10kmの部などの案内板も外されずに残ってあったので、スムーズに走れました。しかし、フルは市街地を抜けるため、途中か

TOPIC③

2月23日
玉名いだてん
マラソン

幻の「完走」記



当日集まったランナーたちに挨拶する藏原隆浩・玉名市市長

ら案内板がなくなり、GPSのお世話になることも。海べり・川べりの道は単調でしたが、時折すれ違うランナーと挨拶を交わすと元気が出てきます。地元のテレビ局からインタビューを受けたりしながら、無事ゴール会場ではウイリスに負けぬ強い体！と、菓草だこ汁が先着200人に振る舞われ、ぴったり最後の1杯にありつけました。

後日、事務局からは記念品としてバスタオルやプログラムのほか、丸ごとイチゴがゴロゴロと入ったジャムが到着。イチゴの食感が残りながらも、とろける感じが絶品でした。幻の「完走」はしたものの、やり残した宿題があるような気分なので、来年は無事に大勢のランナーと走りたいと思います。